

## 令和5年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

### 1. 申請団体情報

#### 1-1. 申請団体

団体名	長野県	代表者名	阿部 守一		
担当者部署	DX推進課	連絡先電話番号	026-235-7146		
担当者役職	主査	担当者氏名	北岡 朋也	連絡先E-mail	
住所	380-8570 長野県長野市南長野幅下692-2				

#### 1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

### 2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	遠藤 守
評価	大変よい
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	地域企業にも参加頂いたことで、参加した自治体職員及び企業の双方にとって気付きを得られた研修会でした。今まで、自団体が保有するデータ提供に意識を傾けていた職員にとって、企業から切り口の異なるデータを提供してもらえることや、そのデータが業務の意思決定に活用できそうだという感覚は、データが地域共通の財産であるという理解に繋がるという印象を持ちました。また、参加した企業からは「自治体の取組・考え方・課題や他企業の取組を知ることができ、何が出来るのかを考える良い機会だった」との感想を頂きました。
アドバイザーへの要望事項	今後、このような取組を県内各地域で展開することが、データ活用推進に向けて有効なことと理解しました。次回フォローアップ時には、今回の研修内容を総括いただきつつ、どのように展開すべきか、的確な方向付け・ご指導頂ければ幸いです。

### 3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

3-1. 対応日・時間	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	期日・支援内容の変更あり	WEBでの手続き日	受付番号
	令和6年2月7日	講演(実地)	有	令和6年1月16日	1162
	実施した派遣日	実施した支援内容	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和6年2月2日	講演（実地）	13時00分	17時10分	10
				活動時間（分）	240
3-2. 派遣場所	会場名	長野県庁	最寄駅	長野	
	所在地	長野県長野市南長野幅下692-2	最寄駅からの交通手段	徒歩	

### 4. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可	<input checked="" type="radio"/> 掲載可	<a href="https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/">https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/</a>
------	--------------------------------------	---

### 5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

5-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	人数
	市町村及び県職員33名及び民間企業等8名（WEB参加者含む）	41人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果		
事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	県が設置したデータ連携基盤は、県内市町村は費用負担なく利用できる取組である。現在は、災害予測分野でのみ利用されており、様々なデータを取扱うことで能力を発揮し新たな価値を生み出すツールとして、県は利用分野を広めたいもののニーズを探っている段階に留まっている。市町村の参画を促すには、市町村職員が有用な情報を得られるツールであると認知してもらうことが課題と感じている。	
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	データ連携基盤の運用は、ユースケースが見えないことにより、どんなデータを活用するかがイメージできず、上手く活用されていない団体があるという話題が散見されている。住民へサービスする立場である市町村が、利用者とデータ提供者の双方の立場としてワーキングに取り組むことによって、データ連携基盤を利活用し、積極的な活用に繋がるよう支援を頂きたい。市町村の理解が進むことで、データ連携基盤の活用が進み、サービス展開が拡大することを目指している。	
アドバイザーに支援を受けた内容（具体的にご記入下さい）	4時間の研修会（対面及びWEBの併催）を、講演及びグループワークの2部構成で実施頂いた。第1部：国の動向や講師が携わっている先進事例の紹介、これから自治体にとって必要なデータに対する考え方について講演の後、参加自治体からの取組事例発表と事例に対する総括。第2部：課題解決に向けた地域での連携とデータ活用という趣旨でグループワークを実施し、企業・県及び市町村職員がそれぞれ参加するグループでの意見交換及び発表の企画・進行、発表後の関連情報提示。	

支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	データ利活用に対する下記の理解が深まり、企業・市町村及び県の参加者同士で共通認識が持てた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・数値だけではなく、画像もオープンデータとして活用されていること</li> <li>・地域が求めるニーズ起点でのデータ準備・提供が必要であること</li> <li>・行政は、保有データを出すことのみではなく、地域が持つデータと連携して活用することが必要なこと</li> </ul> また、グループワークでの取組を介して、データ利活用は自治体だけが努力して地域に浸透を図るのではなく、地域と連携して取り組むことが最善であることを理解できた。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	特になし。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。) アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。  並行して、県内団体へデータ利活用意識調査を実施した結果、データ利活用まで至らない団体がある中、分析方法が判らない・データ蓄積環境が無いという、今後の取組に向けて具体的な傾向を把握できた。	
5-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	⑤その他
事業の最終的な目指す姿	来年度、データ連携基盤の取組を推進するための協議体を始動すること。 併せて、県が設置したデータ連携基盤にてAPI形式で提供するよう、担当部署へ意見提出する。	

なお<その他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意下さい

## 6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。



参加者による事例発表・WEB参加者画面